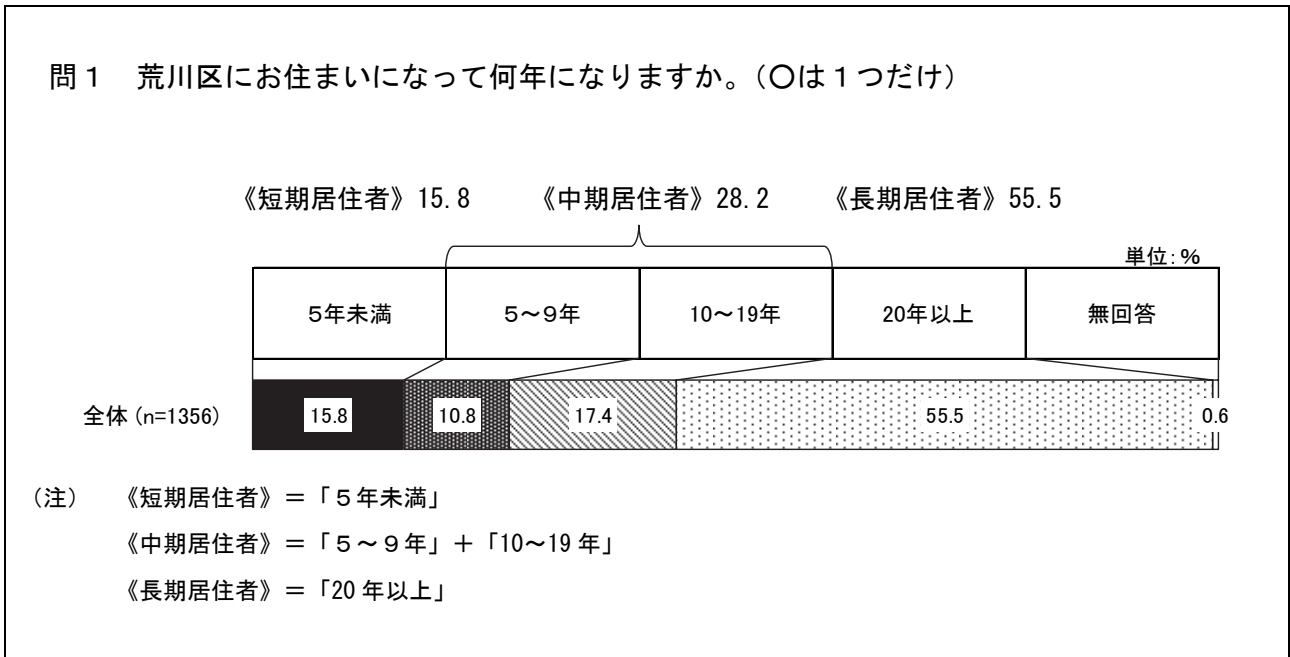


V 結果と分析

1. 居住と生活環境

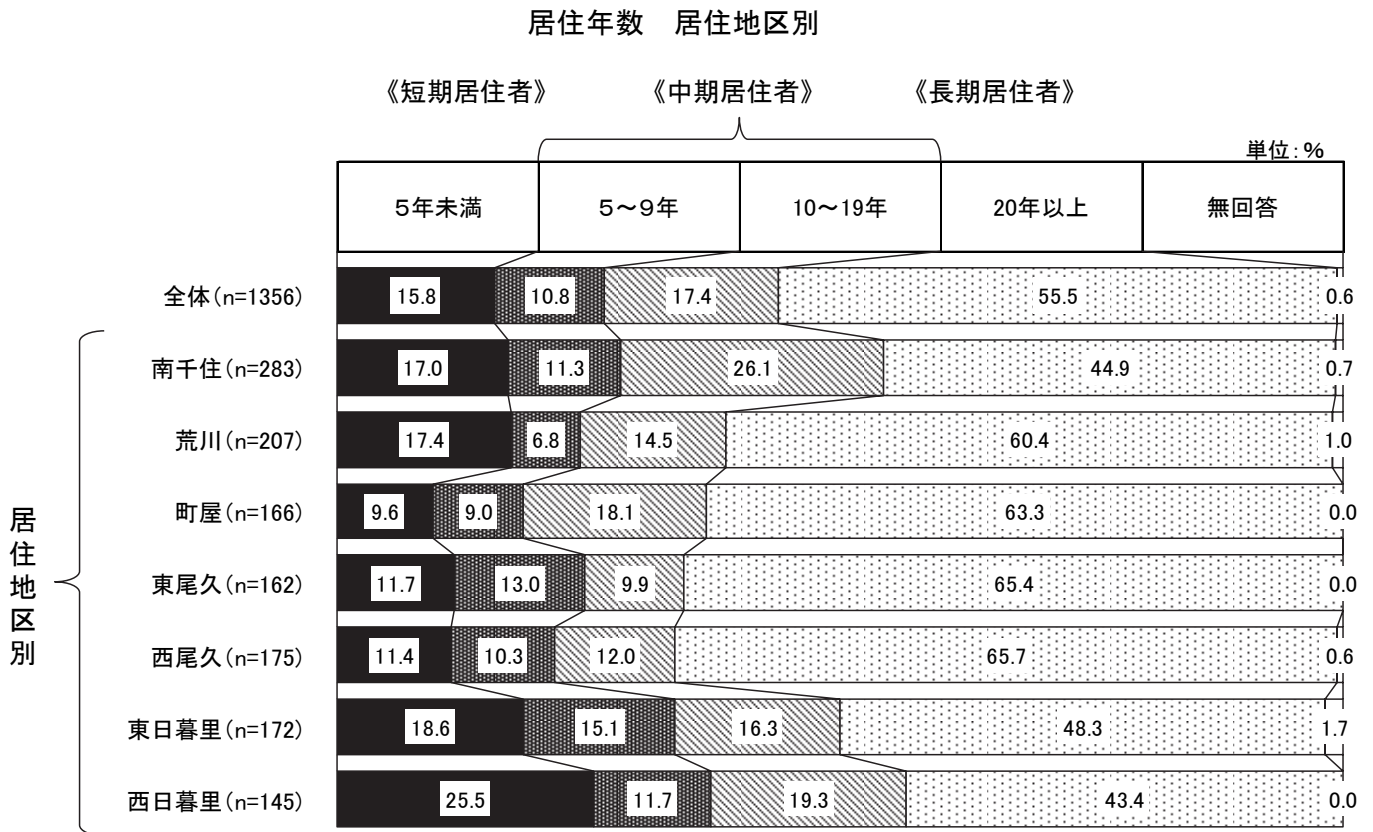
(1) 居住年数

◇「20年以上」の《長期居住者》が5割半ば

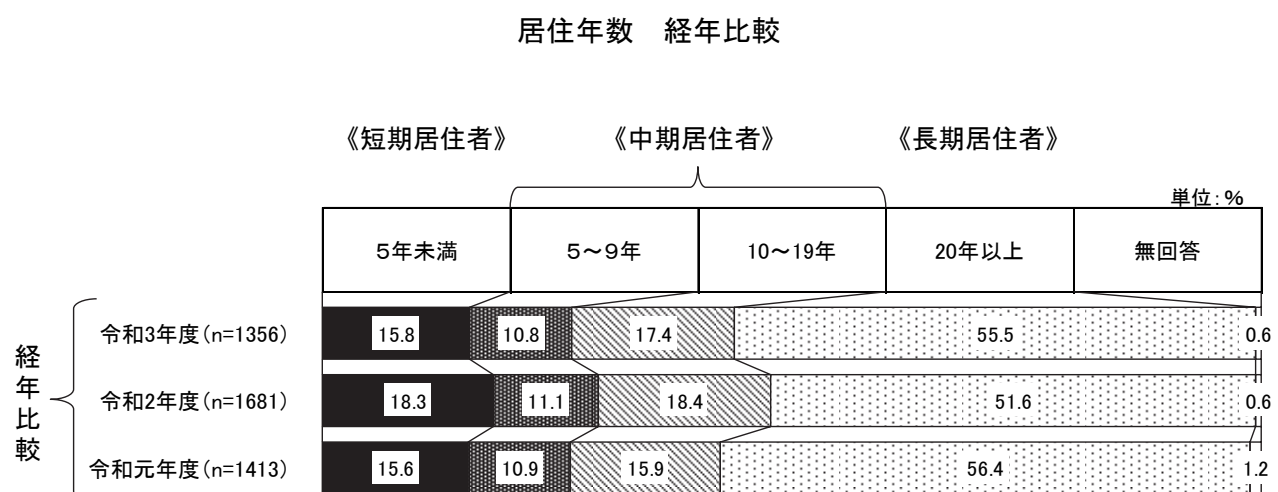


居住年数について聞いたところ、「20年以上」(55.5%)の《長期居住者》が5割半ばで最も高く、次いで「10～19年」(17.4%)と「5～9年」(10.8%)を合わせた《中期居住者》(28.2%)が3割近く、「5年未満」(15.8%)の《短期居住者》が1割半ばとなっている。

居住地区別でみると、「5年未満」の《短期居住者》では、西日暮里地区（25.5%）が2割半ばとなっている。一方、「20年以上」の《長期居住者》では、西尾久地区（65.7%）、東尾久地区（65.4%）の2地区で6割半ばと、高くなっている。また、「5～9年」と「10～19年」を合わせた《中期居住者》では、南千住地区（37.4%）3割半ばを超え高くなっている。

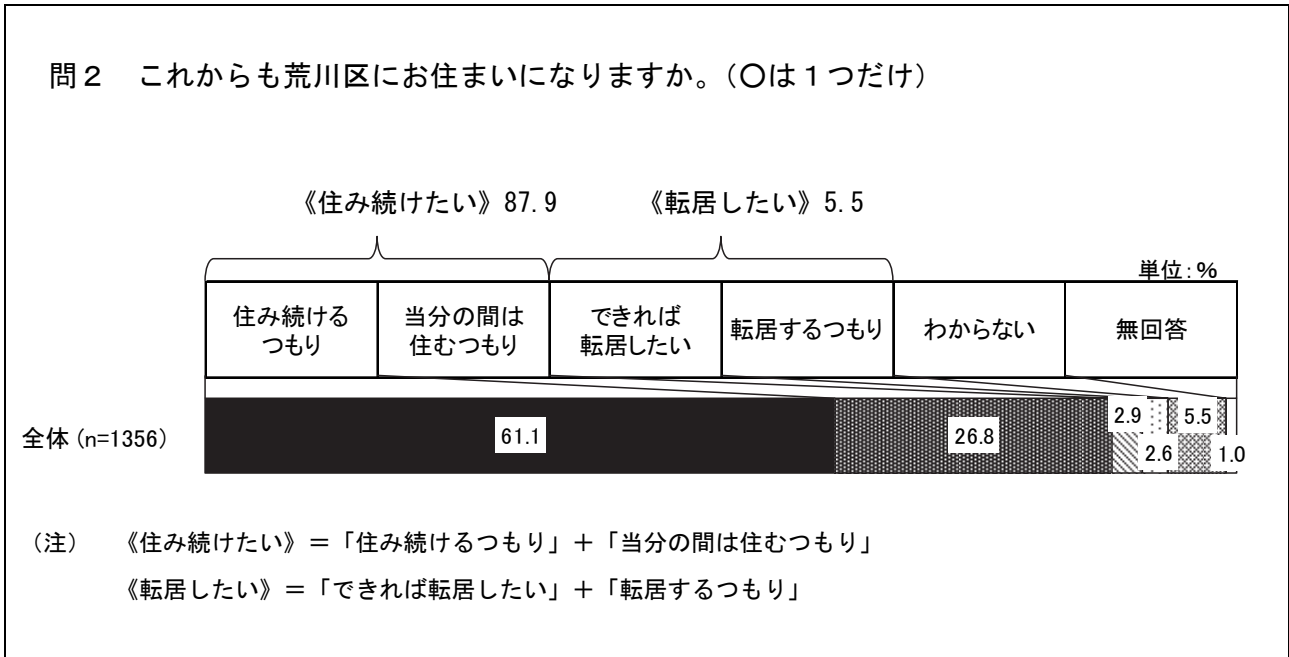


過去の結果と比較してみると、「20年以上」の《長期居住者》が、令和2年度では51.6%であったのに対し令和3年度では55.5%と、令和元年度の56.4%と同程度になっている。



(2) 定住意向

◇ 《住み続けたい》の割合は8割半ばを超え



定住意向について聞いたところ、「住み続けるつもり」(61.1%)と「当分の間は住むつもり」(26.8%)を合わせた《住み続けたい》(87.9%)の割合が8割半ばを超え、高い割合を示している。

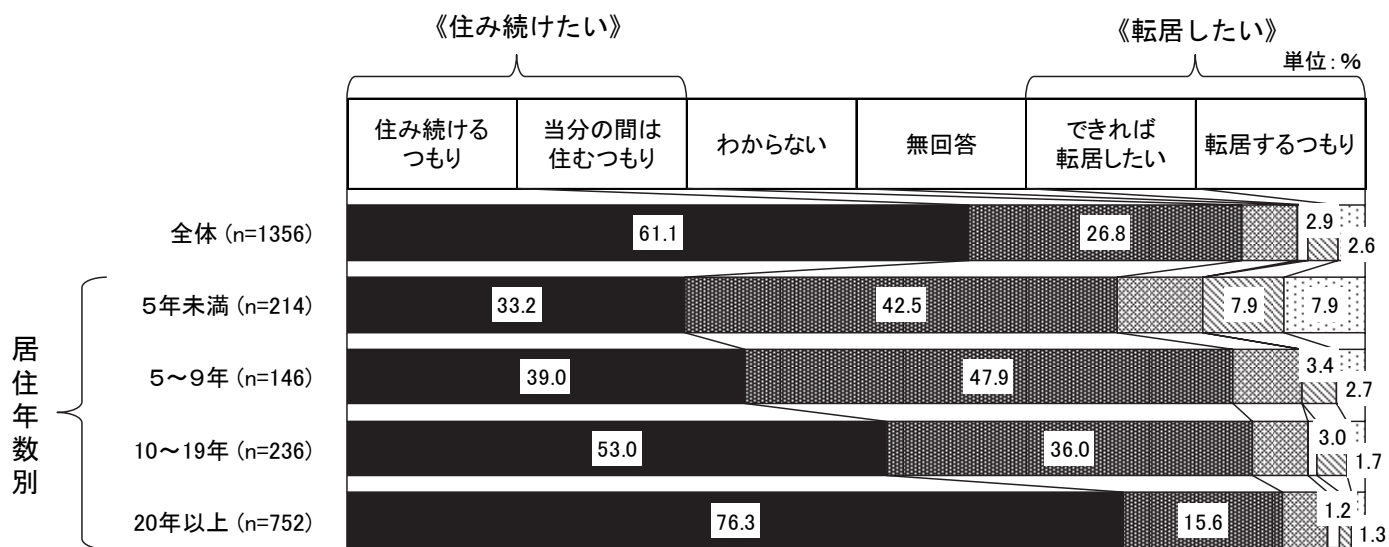
一方、「できれば転居したい」(2.9%)と「転居するつもり」(2.6%)を合わせた《転居したい》(5.5%)の割合は1割未満となっている。

居住年数別でみると、「住み続けるつもり」は「20年以上」(76.3%)が7割半ばを超え、最も高くなっている。

また、「住み続けるつもり」と「当分の間は住むつもり」を合わせた《住み続けたい》は居住年数が長いほど割合が高くなっており、「10～19年」(89.0%)、「20年以上」(91.9%)では約9割と多数を占めている。

一方、「できれば転居したい」と「転居するつもり」を合わせた《転居したい》では「5年未満」(15.8%)が1割半ばだが、他の居住年数では1割未満となっている。

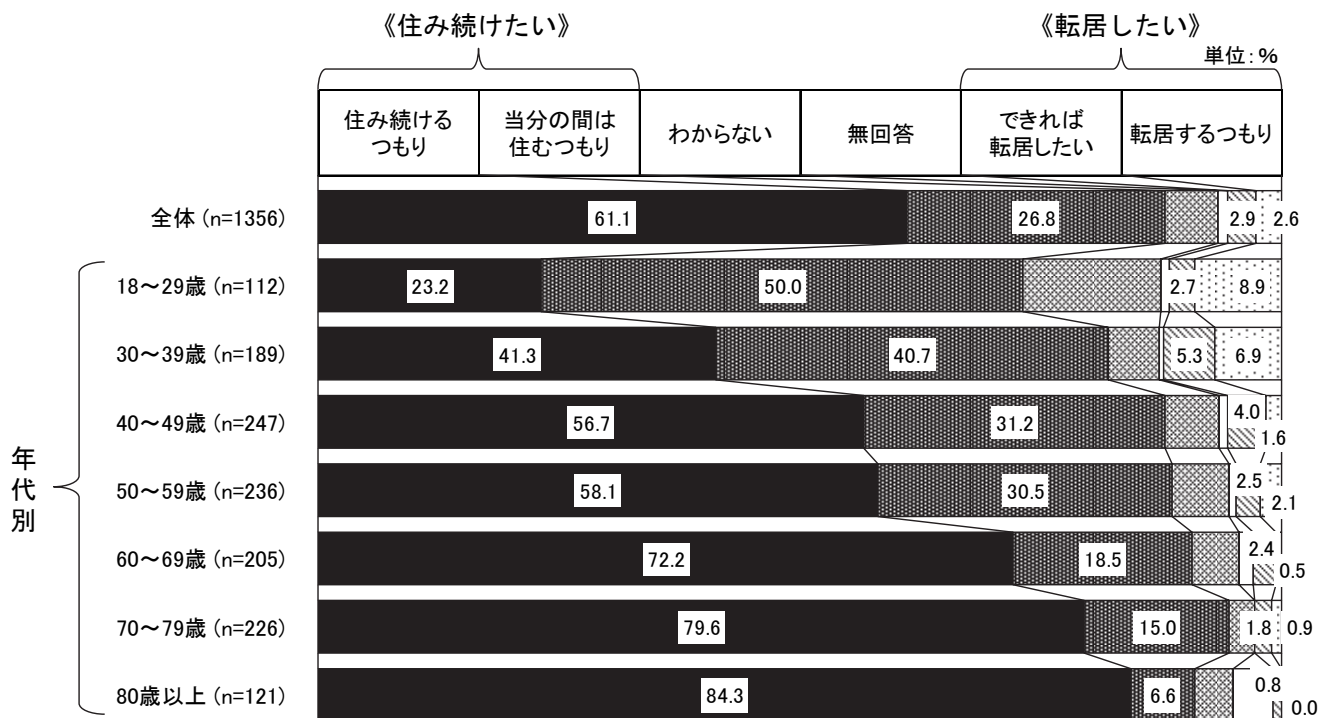
定住意向 居住年数別



年代別でみると、年齢が高いほど「住み続けるつもり」の割合が高くなっており、80歳以上で84.3%、70～79歳で79.6%となっている。また、《住み続けたい》では、70～79歳が94.6%と最も高くなっている。

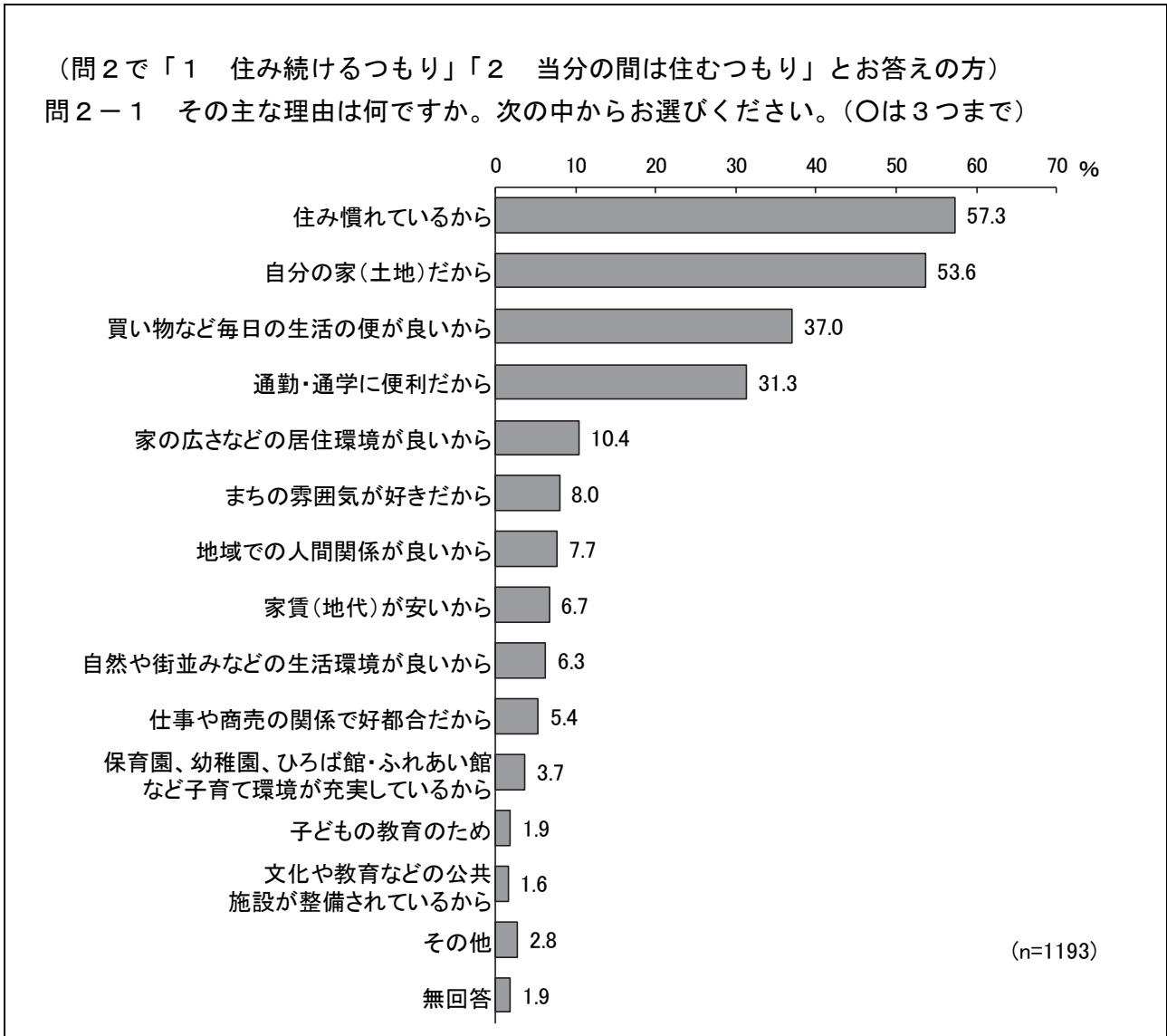
一方、《転居したい》では、18～29歳が11.6%、30～39歳が12.2%と1割強となっている。

定住意向 年代別



(2-1) 住みたい理由

◇「住み慣れているから」が5割半ば超え



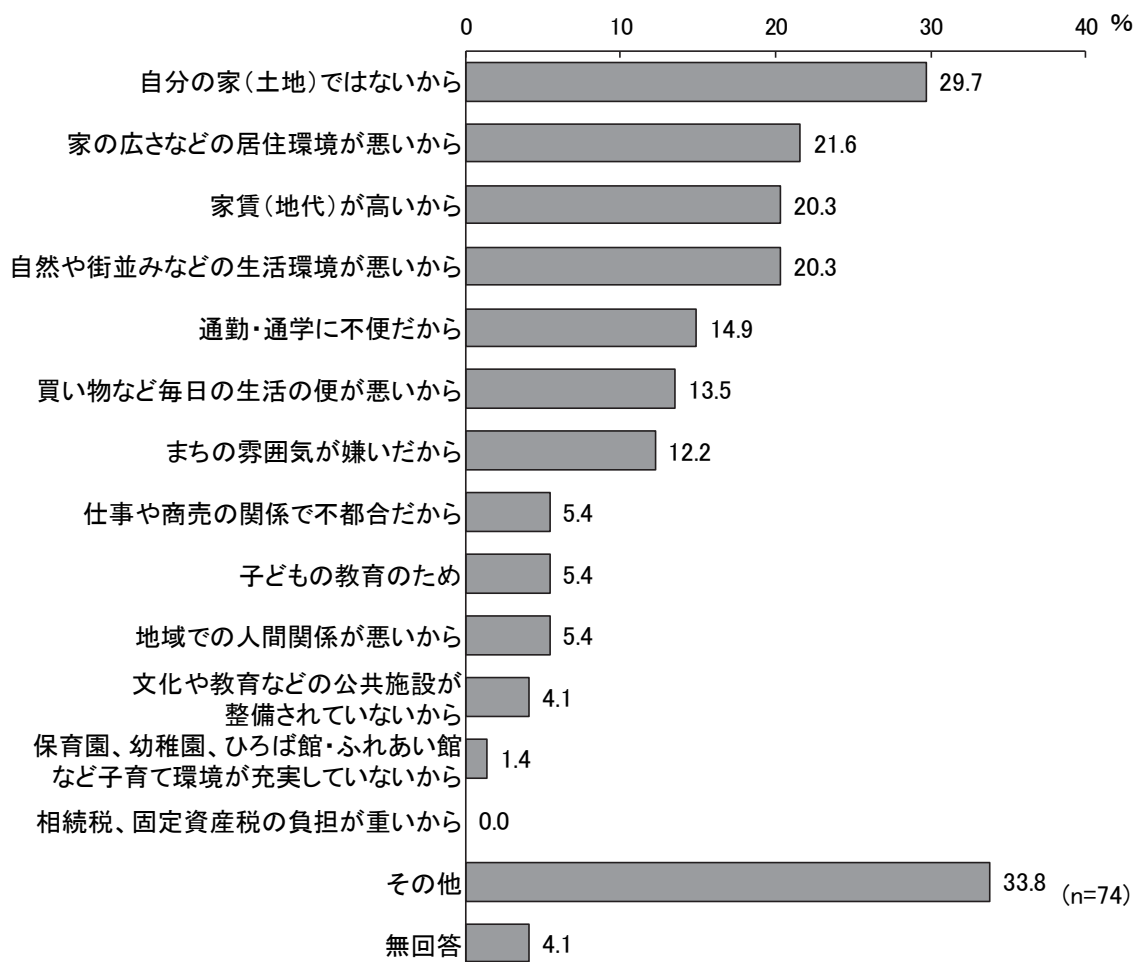
住みたい理由について聞いたところ、「住み慣れているから」(57.3%)が5割半ばを超え最も高く、次いで「自分の家(土地)だから」(53.6%)、「買い物など毎日の生活の便が良いから」(37.0%)、「通勤・通学に便利だから」(31.3%)が比較的高くなっている。

(2-2) 転居したい理由

◇「自分の家（土地）ではないから」が3割弱

(問2で「3 できれば転居したい」「4 転居するつもり」とお答えの方)

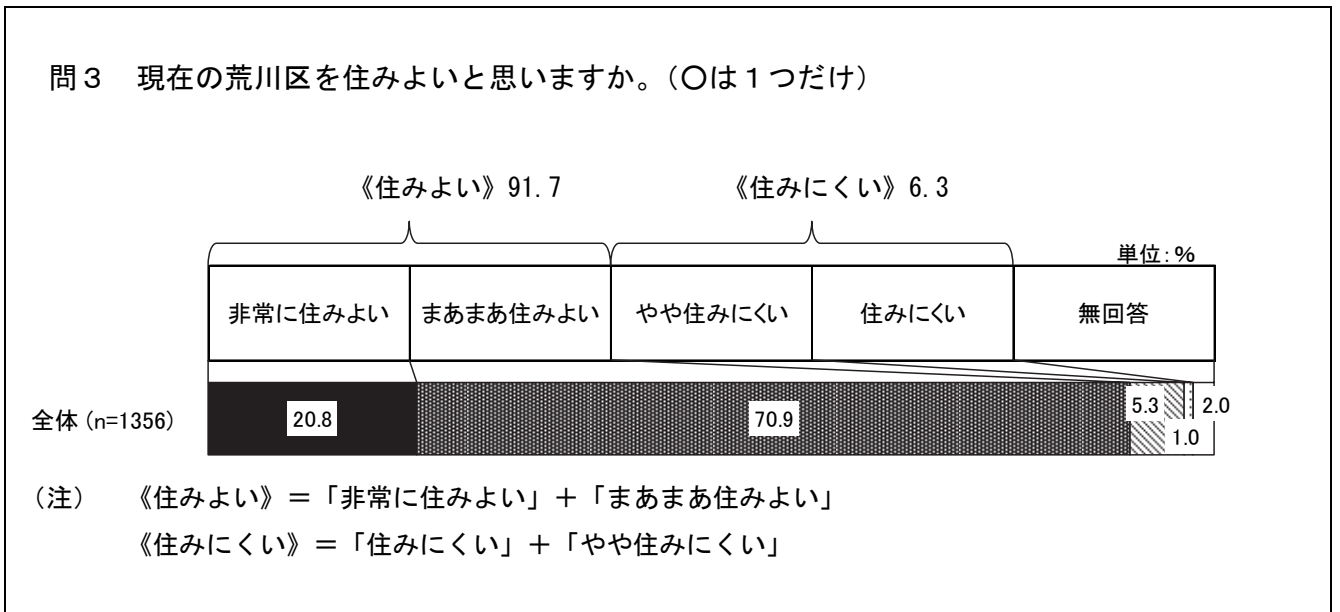
問2-2 その主な理由は何ですか。次の中からお選びください。(〇は3つまで)



転居したい理由について聞いたところ、「自分の家（土地）ではないから」（29.7%）が3割弱と最も高く、次いで「家の広さなどの居住環境が悪いから」（21.6%）、「家賃（地代）が高いから」（20.3%）、「自然や街並みなどの生活環境が悪いから」（20.3%）が比較的高くなっている。

(3) 住みよさ評価

◇ 《住みよい》が9割強



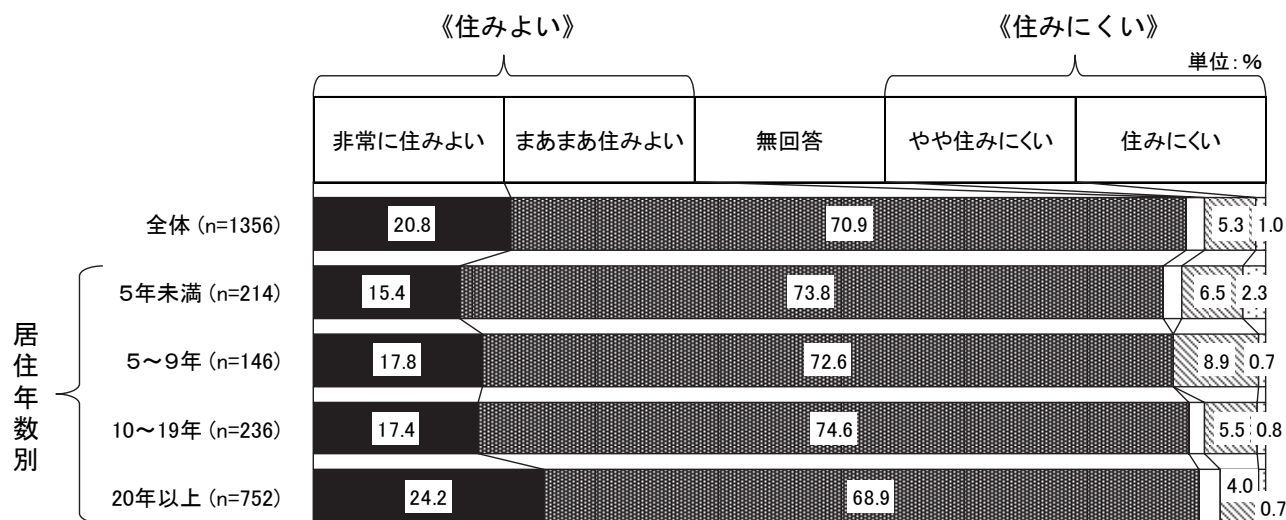
住みよさ評価について聞いたところ、「非常に住みよい」(20.8%)と「まあまあ住みよい」(70.9%)を合わせた《住みよい》(91.7%)の割合は9割強と圧倒的に高い。

一方、「やや住みにくい」(5.3%)と「住みにくい」(1.0%)を合わせた《住みにくい》(6.3%)は1割に満たない。

居住年数別でみると、「非常に住みよい」は「20年以上」(24.2%)が2割半ば近くと最も高い。また、「非常に住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた《住みよい》はいずれの居住年数でも約9割となっている。

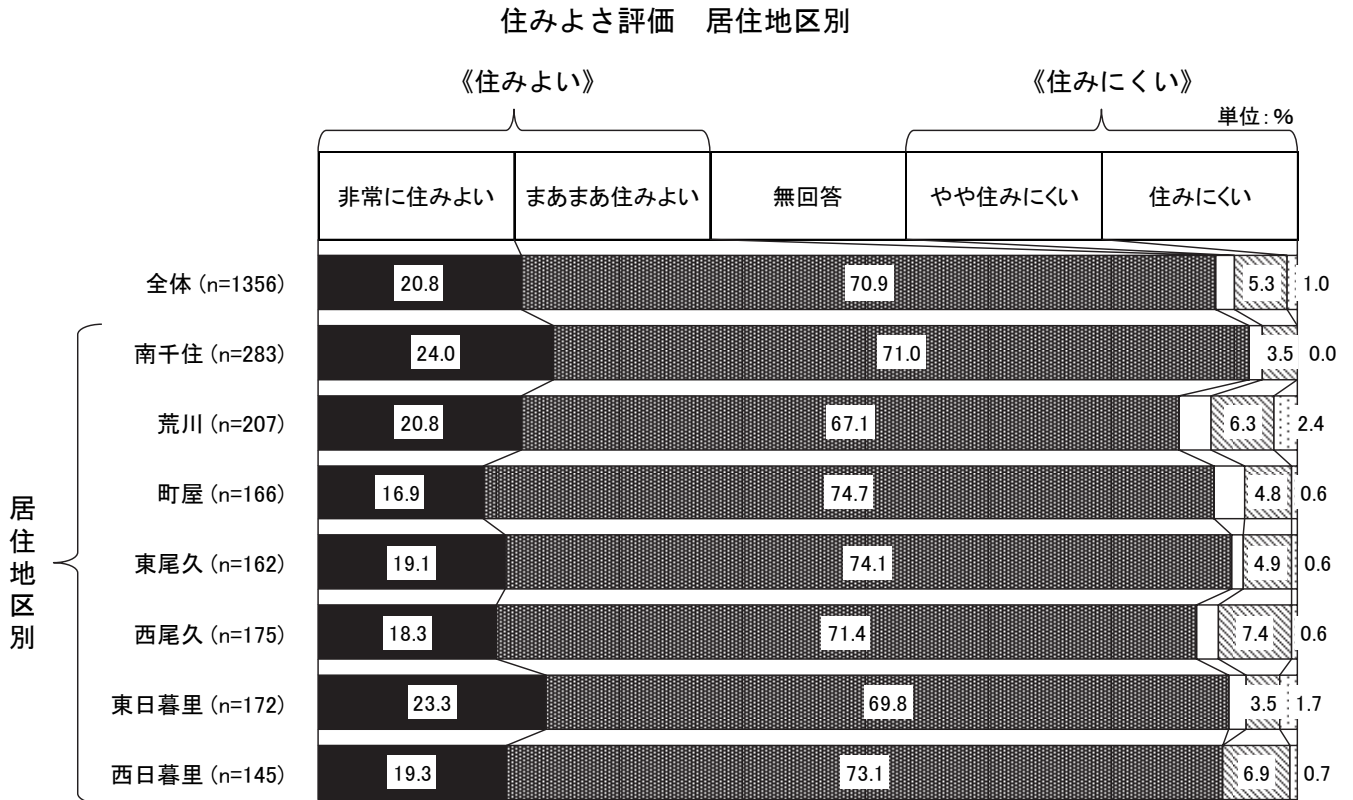
一方、「やや住みにくい」と「住みにくい」を合わせた《住みにくい》は「5～9年」(9.6%)が最も高くなっている。

住みよさ評価 居住年数別

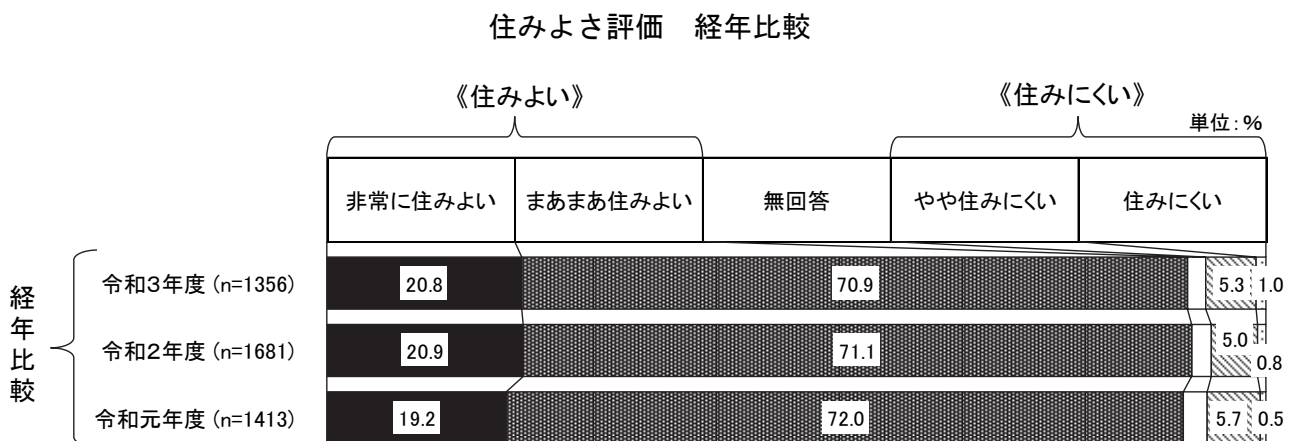


居住地区別でみると、「非常に住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた《住みよい》は、南千住地区（95.0%）が9割半ばと最も高くなっている。

一方、「やや住みにくい」と「住みにくい」を合わせた《住みにくい》は、いずれの地区も1割に満たない。



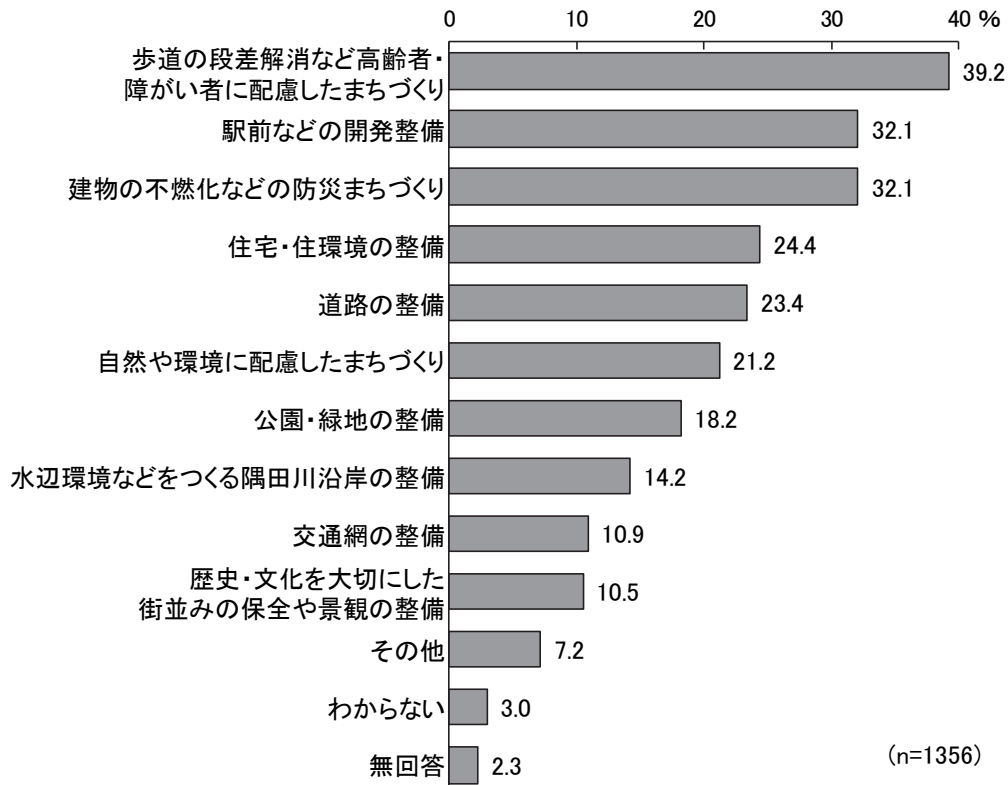
経年比較でみると、「非常に住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた《住みよい》は、令和3年度は91.7%、令和2年度は92.0%、令和元年度は91.2%と、どの年度も9割を超えている。また、「やや住みにくい」と「住みにくい」を合わせた《住みにくい》はどの年度も1割に満たず、概ね同様の傾向である。



(4) まちづくりを進めていく上で重要な課題

◇「歩道の段差解消など高齢者・障がい者に配慮したまちづくり」が4割弱

問4 今後、荒川区のまちづくりを進めていく上で重要な課題と思われるものを、次の中から
お選びください。(〇は3つまで)



まちづくりを進めていく上で重要な課題について聞いたところ、「歩道の段差解消など高齢者・障がい者に配慮したまちづくり」(39.2%)が4割弱と最も高く、「駅前などの開発整備」(32.1%)、「建物の不燃化などの防災まちづくり」(32.1%)が比較的高くなっている。

上位6項目を居住地区別で見ると、「歩道の段差解消など高齢者・障がい者に配慮したまちづくり」で東尾久地区（45.1%）、西尾久地区（40.0%）が4割以上と高くなっている。また、「駅前などの開発整備」では西日暮里地区（46.2%）、「建物の不燃化などの防災まちづくり」では東尾久地区（41.4%）が他の地区と比較し、やや高い割合を示している。

まちづくりを進めていく上で重要な課題（上位6項目） 居住地区別

